

野良猫増加に伴う公衆衛生学的問題を周知するプロジェクト ～山大にゃんこ大作戦～

		代表者	崎川	大輝 (共獣 B3 年)		
構成員	安藤	紗奈 (共獣 B3 年)	内藤	杏海 (共獣 B3 年)	長谷川	萌慧 (共獣 B3 年)
	橋本	匠護 (共獣 B3 年)	長尾	可菜子 (教育 B2 年)	儀久	恵太 (工学 B2 年)
	坂本	葵 (教育 B2 年)	山口	祐貴子 (人文 B2 年)		他 4 名

1. 本プロジェクトの目的と方法

本プロジェクトでは、講演会の開催などを通して、野良猫増加に伴う感染症の蔓延などの問題を周知する。さらに、他団体の地域猫活動の成功に貢献する。

活動方法は、主には講演会の開催と、ガイドブックの作成である。講演会は、地域猫活動や TNR 活動 (Trap-Neuter-Return: 捕獲, 避妊手術, 元の場所に戻す) を行う上で重要な項目について、専門家の先生をお呼びしご講演いただく。さらに、講演会の内容はガイドブックとしてまとめ、自治体などにも活用していただく。

2. 活動と成果

2.1 講演会の開催

6 月に共同獣医学部の下田先生に「猫の感染症」について、10 月に神奈川県動物愛護協会の黒澤先生より「地域猫活動」、東京大学の小野塚先生より「野良猫のいる社会といない社会」、広島県立大学の百武先生より「合意形成」について、ご講演いただいた。講演会には一般の方も招き、来場者数は 30～40 名ほどだった。



写真 1 第 1 回講演会の様子

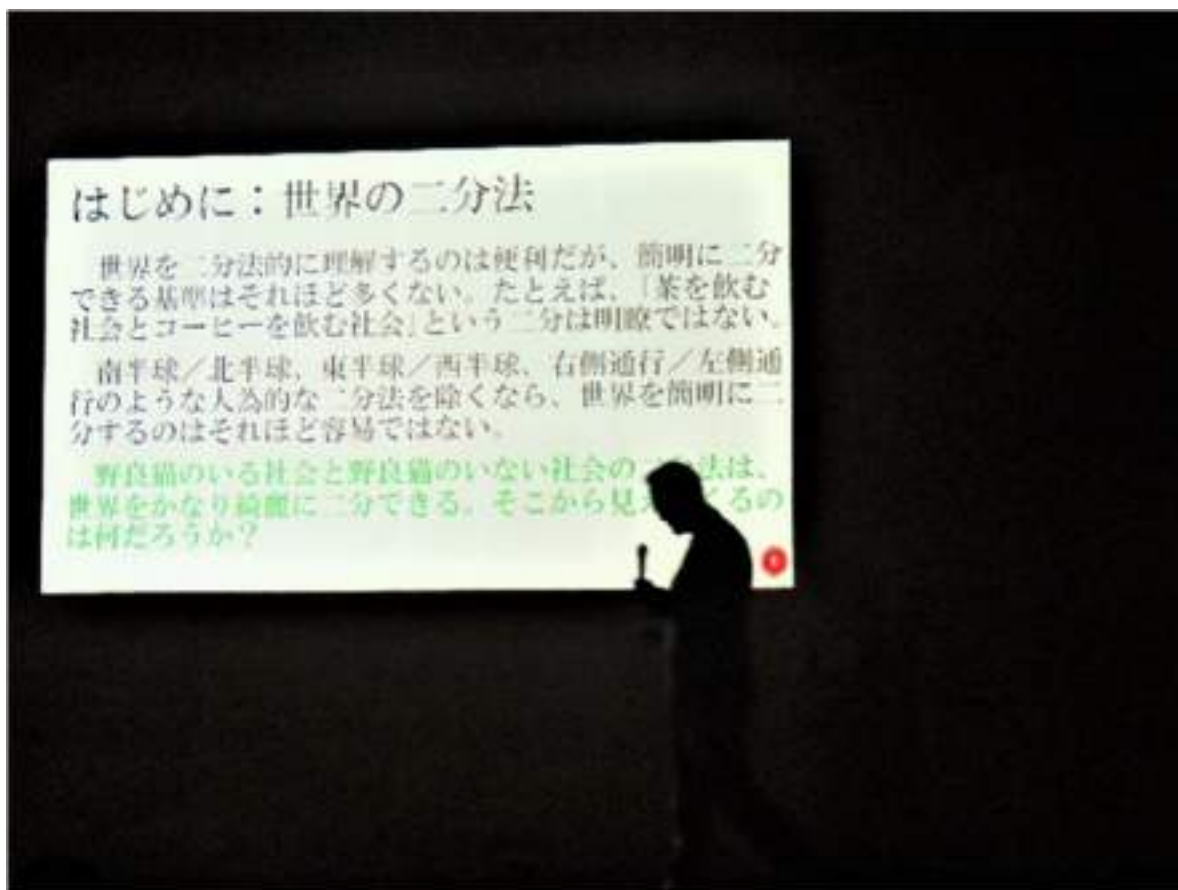


写真2 第2回講演会の様子



写真3 第3回講演会後の集合写真



写真4 第4回講演会の様子

講演会の情報発信の手段としての効果を、定量的に評価するために来場者にアンケートを実施した。各講演会の内容に対しての、講演会前と講演会後の理解度を調査し、比較した。全4回の講演会で、来場して下さった98名の中でアンケートにご協力いただいた55名（学生42名、一般市民13名）のアンケート結果をまとめた。結果は、講演会前が「理解していない」が54%と半数を超えていたが、講演会後には「理解していない」が0%になり、「深く理解している」が71%とかなり高い値になった。これより、講演会には一定の効果があることが分かった。

アンケートでは、自由記述欄も設け来場者の声を集めた。回答では、ご好評の声を多くいただき大変うれしかった。しかし、「講演会は素晴らしかったので告知をもう少しするべきでは」などの声もいただき、広報不足を再度感じた。

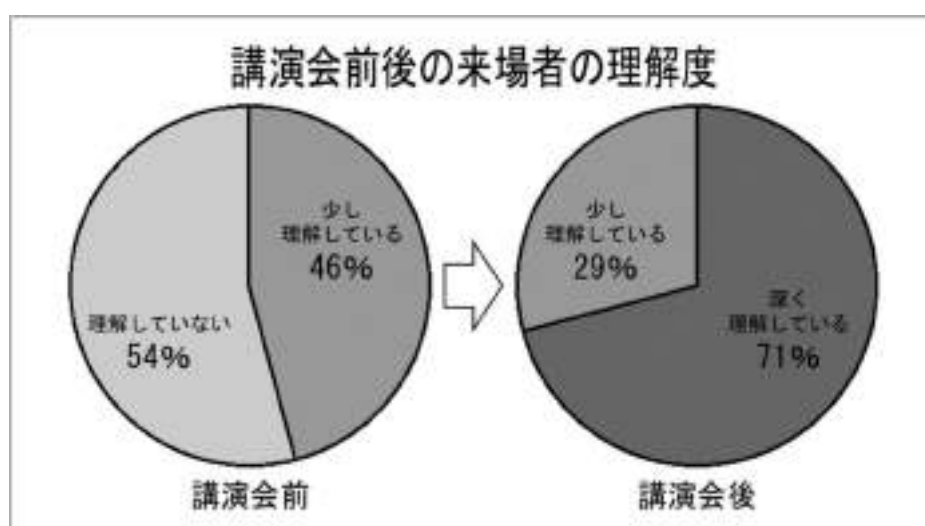


図1 講演会アンケートの結果

2.2 ガイドブック作成

印刷会社の株式会社マルニ、県や市自治体の担当者様、講師の先生方のご協力のもと、講演会の内容をまとめガイドブックを作成した。ガイドブックのデザインに関しては、イラストを使い親しみやすくしつつ、子どもっぽくはならないようなものになっている。

ガイドブックの配布先は、県や市自治体の担当者様との協議を経て、官公庁の猫関連窓口においていただく予定である。また、猫活動に関心を持つ方が多くいらっしゃるであろう、県内の動物病院も配布先の一つとして考えている。



図2 ガイドブックデザイン

2.3 市や県との連携構築

自治体で活用していただけるようなガイドブックにするべく、ガイドブックの内容についてご相談をさせてもらいに、県および市を訪問した。アドバイスをいただき、今後もガイドブック作成の際に協力していただけることになった。

2.4 広報活動

講演会の多くの方に来ていただけるように、広報活動も積極的に行った。道の駅や、自治体、校内、動物病院でのポスター掲示、記者クラブへの資料投げ込み、山口新聞への記事掲載のお願いなどを行った。



写真5 道の駅での広報活動